

【H31 / 下期初訓示】

R元-10-1
矢野弘典

一人は皆のために、皆は一人のために

～現場力を高めよう～

下期の初めにあたり。ご挨拶申し上げます。

ラグビーのワールドカップが始まり、日本チームの活躍を目の当たりにし、多くの人がテレビの前に釘付けになったことでしょう。無理してでも切符を買うのだった、と思っている方もあるかも知れません。(実は私もその一人です。)最初のロシア戦で見事な勝利を収めたのを見て、「日本も強くなったなあ」とは感じましたが、正直のところ世界のトップといわれるアイルランドにはまだ届かないのではないかと感じていました。ところがところがです、この最強のチームを、しかもこの静岡の地元の戦いで破ったのです。静岡ミラクル、静岡ショックと外電でも報じられ、静岡県の名を世界に発信するまたとない機会となりました。本当に凄いことです。私はテレビに齧りついていた組でしたが、心の底から嬉しく、昂奮し、思わず拍手喝采を送りました。4年前に南アフリカを破った時も驚きましたが、実力ではまだトップには遠いのではないかと疑った覚えがあります。しかし、今回は攻めも守りも対等に戦い、チャンスを逃さず得点に結びつけたのです。体格でも見劣りがしませんでした。

新聞各紙は大見出しで、「大金星！」と書きつらねましたが、このクラスの戦いにマグレというものがあるのだろうか、と私は考えました。私はラグビーについてはボールを握ったこともない全くの素人ですから、専門的な批評はできませんが、私が関係している柔道や相撲などの他の競技と比べてみた時に、そこには必ず永年月をかけた準備と鍛錬があったものと確信しています。どうすれば長所を伸ば

せるか、そして短所をなくせるか、チームプレーをどう磨き上げるか、どうすれば個人のモチベーションと体力と技術力を高められるか、そうした課題に一つひとつ手を抜かずにチャレンジしてきた結果が今につながっているものと思います。まだ予選の段階ですから、これから先の予則はできませんが、この勢いに乗って思う存分に戦って欲しいと思います。

静岡県では、10月4日以降にも3試合が予定されています。日本チームは出ませんが、世界の強豪である南アフリカ、イタリア、スコットランド、ロシア、オーストラリア、ジョージアが登場します。これらの試合には、県内の小中学生を大勢、スタジアムに招待することにしました。県の「地域自立のための人づくり学校づくり実践委員会」で提案し、知事と教育委員で構成される「総合教育会議」で賛同を得て実現しました。総合教育会議には、私も実践委員会の委員長として説明のために参加しましたが、子どもたちの教育の一環として世界最高のプレーを見て貰うことにしたのです。多くの人にとっては、一生に一度の機会になるかも知れません。これも静岡県ならではの取り組みと思い、ご紹介した次第です。

ところで、ラグビー精神として昔から伝えられてきた名言があります。皆さんもご承知のことと思いますが、改めてここでご紹介しませう。それは次の通りです。

“O n e f o r A l l , A l l f o r o n e .”

言うまでもなく、「一人は全員のために、全員は一人のために」という意味です。私はラグビーをやったことはありませんが、昔からこの言葉に共感し、こういうラグビー精神を尊敬してきました。会社を経営している時にも、中間管理者として仕事をした時にも、しばしば個人プレーとチームプレーのあり方を語ってこれ以上の言葉はないと思ってきました。仕事が上手くいった時は、必ずこの精神がチームに共有されている時だったと思います。

ラグビーの選手は、トライして得点を挙げた時にも、狂喜乱舞したりしませんね。何故でしょうか。それはトライできたのは自分ひとりの力だとは思っていないからだと思います。トライした後は、当の選手はガッツポーズもせずに、淡々として自分のポジションに戻る、よい風景ですね。

ラグビーを観戦しながら、私は「現場力を鍛えよう」と思いました。「現場力」については、これまでも何度かお話をした記憶がありますが、改めて見直してみましよう。

現場力＝使命感＋チームワーク＋技術力＋経験

現場力の現場とは、私たちがサービスを提供する土地・道路・住宅の前線が現場であることは言うまでもありません。地主との交渉、道路の新設・管理、住宅の管理、関係団体との交渉の場などです。しかしそれだけではありません。本社や管理センターや支所などの事務所も現場です。内局での事務作業も、前線を支援し、全体をサポートする現場なのです。では、その現場での力量、言いかえますとサービスの質を高めるにはどうすれば良いのでしょうか。これが、現場力を高める課題なのです。

それでは、現場力の方程式を構成する四項目を分解してみましよう。

先ず何よりも大事なことは、一人ひとりの使命感です。自分の仕事をやり遂げようとする思いです。これがなくては何も始まりません。

『論語』に、「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という言葉があります。物事を知っていることは大事なことだが、それを好む人にはかなわない。好む人も楽しむ人にはかなわない、という意味です。確かに思い当たるところがあります。大好きなことに没頭していると、時の経つのを忘れます。どんな仕事でも真正面から取り組んでいると、不思議なもので段々と好きになり、面白くなり、楽しくなるものであることは皆さんもご

経験のあることでしょう。そういう人が、仕事のエキスパートとして周りの尊敬を集めるのです。何事によらず単なる批評家には、この醍醐味を味わうことはできないと思います。

次に大事なことは、チームワークです。大きな仕事になるほど、一人でやり遂げることは難しくなります。専門的な知識を持っている人や経験豊富な人の意見を聞き、手助けを受ける必要が出てきます。また逆に、自分の持っている知見を人に使って貰う機会も増えます。そのようにしてチーム力が向上して、良い仕事の仕上がりとなるのです。ラグビーの精神と同じですね。

そして、三つ目に大事なことが、技術力です。技術力とは、専門能力のことです。エンジニアが持っている技術力もそうですが、総務部門の事務能力もここでいう技術力です。基礎をしっかりと勉強して必要な知識を習得することは欠かせませんが、応用問題を解くには経験の蓄積が必要です。マニュアルに書いてあるとおりにやるだけでは不十分で、まずはマニュアルを作れるような力量に達する必要があります。そうして初めて応用問題を解けるようになり、専門性の高い技術力の持ち主になったと言えると思います。現場で起こる問題は、似ているケースはあっても、どれ一つとして完全に同じということとは決してありません。多かれ少なかれ、応用問題の連続なのです。

そして最後に、経験の積み重ねが大事です。昔から、「若い時の苦勞は買ってでもせよ」と言われてきました。若い時に限りませんが、自分が一所懸命に取り組まなければ解決できなかった苦勞こそが、あるいはそれだけが、自分自身のかげがえのない一生の財産になるからです。骨身にしみた体験だけがその人ならではの財産となって、急場に直面した時に正しい判断を支えてくれるのです。そうでない経験は畳の上の水練と同じで、急場に向かった時に頭の中は真っ白となり、何の助けにもならないことでしょう。専門能力も、多くの問題を解決する経験の中から育ちます。一見すれば異なったケースから、基礎的に共通する原理を発見すること、それが経験を積むことの意

味だと思えます。

「現場力」について縷々申し上げましたが、それは「現場主義」の実力をつけることです。現場主義とは、「現場に立って考え行動すること」です。そこから私たちの将来像も生まれ、問題が起こった時の解決のヒントもあるのです。どうぞ皆さん、機会ある事に現場に立ち、現場力を磨いていきましょう。

経営方針全般については、4月の年度期初に申し上げたとおりで、年間を通じて変わることはありません。念のために申し上げれば次の三点です。

- 1, 経営理念「お客様と共に歩む」の徹底
- 2, センターの一体化
- 3, 健全経営の維持

詳しい説明は省略しますが、皆さんのご尽力に期待します。

終わりにあたり、いつものことですが、同じことを申し上げます。

明るく、元気に、仲よく、厳しく！

以上